

# 打楽器メンテナンス

## VOL. 1 スネアドラム

一口に打楽器といっても、その種類は多種にわたり、その数 数百にも及びます。そんな中でもチューニングの必要な楽器については、吹奏楽で活動する皆さんにとっては悩みの種ですね。今回からシリーズで、スネアドラム、ティンパニ、ベースドラム等、チューニングの基本をお伝えしていきます。今回はまず、スネアドラムの調整についてお話ししましょう。

### 1

弾力のなくなった古いヘッドを調整するのは難しいものです。一年以上使用しているようなものは、是非新しいものに交換してチューニングをしてみてください。スネアドラムが生き返りますよ。そして、この機会にバラバラにされたパーツをきれいに磨きましょう。



### 2

新しいヘッドは最初少し伸びるので、高めに張っておくと数日後に落ち着きます。2~3日たってから再度チェックします。全体を平均的に締め上げていきます。あまり神経質にならなくても大丈夫ですよ。表も裏もほぼ同じ程度にしっかり張ってください。目安としては、声で共鳴させて、B♭~Cくらいで胴が響く程度まで張ります。手で押さえてしっかりなじませます。(裏はやりすぎないように)



### 3

スナッピーは裏ヘッドの中心にあたるように、少しだけ気を使って取り付けます。まっすぐに付くように気をつけて…。後で調整用のネジで対応できるようにゆとりを持ってヒモを固定してください。最後にスナッピーをONにしたとき、適度な響きになるようにネジで調節します。パリッと歯切れの良い響きになるよう張ってください。



スネアドラムは打楽器セクションの中でもメインになる楽器ですが、いつも使う楽器だけに、なかなか古くなっているヘッドに気が回らず調整もままならない状態になってしまいがちです。最初にもお伝えしましたがヘッド交換が可能な打楽器(ティンパニ、ベースドラム、スネアドラム、ドラムセットなど)は、新しいヘッドに交換することで見違えるほど生き返ります。困難な作業ではありませんので、是非皆さんの手で交換にチャレンジしてみてください。次回はベースドラムのチューニングについてお話しします。(文:畑中文規)

#### ■畑中文規 略歴

武蔵野音楽大学卒業。打楽器全般を小林美隆、塚田靖の両氏に師事。在学中より東京都内オーケストラにエキストラとして出演。卒業と同時に山形交響楽団に入団。D・ミョーの打楽器協奏曲を同交響楽団と共演。1981年新星日本交響楽団に入団。オーケストラ在籍中、国内各オーケストラにもエキストラとして出演。また、打楽器アンサンブル活動も積極的に取り組む。バイエルン国立歌劇場日本公演にエキストラとして出演。1996年より同交響楽団首席打楽器奏者。1998年野中貿易株式会社入社。2017年野中貿易株式会社を退職。現在は後進の指導にあたる。



ラディック社のスネアドラムは明るくクリアなサウンドが特徴ですが、純正のドラムヘッド及びスナッピーは、その個性が最大限発揮されるよう開発されています。もしも、お持ちのラディック・スネアドラムのヘッドやスナッピーを交換される際は是非ラディック社純正品への交換をお勧めします。



LW3314

## LUDWIG

L1930C



LW3314 14 インチ 表ヘッド(ホワイトコーテッド) ¥2,700  
C-1114 14 インチ 裏ヘッド(クリアー) ¥2,500  
L1930C 14 インチ スネアスナッピー ¥2,600

※価格は2014年4月現在の税抜金額となります。